

平成 17 年度 e-Learning（書誌学）研究報告

平成 16 年度に基本設計と書誌学研究資源としての和古書や刷り物等の撮影を行ったのを受けて、平成 17 年度は撮影した素材を編集して磨きながらコンテンツとして実装することを進めた。

e-Learning の基本設計としては学習の進展を管理する教育管理システムの部分と教習システムの内容を盛り込むコンテンツ部分とに分かれる。

その両方のシステムをともに進捗させたが、

- ・ 教育管理システムの部分については、教育担当者が管理する平成 16 年度の方式とは別に、平成 17 年度は学習者が自主管理できるシステムを付加した。これは、e-Learning（書誌学）の学習項目が多岐にわたるため、学習者自身が内容の習得について着実な結果が出せるようにするためである。
- ・ 教習システムのコンテンツ部分は、撮影した動画と静止画を基本設計どおりの項目それぞれについて実装し、音声についてはプロのアナウンサーの声で実装した。また、文字と音声の説明に加えて、理解しやすいようにアニメーションも加えて、理解しやすさを格段に高めた。
- ・ 応用編の入り口として、実験編として“絵巻物の補修”行程を参照学習できるよう、とりあえず平成 17 年度は平治物語絵詞信西巻（江戸時代中期に作成された模本。傷みがかなり進んでいる）を実際にプロの手による補修に出し、その補修工程を動画、静止画取り混ぜてデジタル撮影している。

平成 18 年度 e-Learning（書誌学）研究計画

- ・ 教育管理システムについては、これをネットに載せて稼働させるのに相応しいよう、学習者からの質問と教育担当者からの回答が相互に利用でき、その結果が、次の学習者にも参照できるような双方向システムの付加を考え、年度末にはネット上に載せて試験公開に入りたい。また、どういう試験を課すことで合否を決めるかという評価システムの問題があるが、単位認定についての試験については、今のところ対面方式を考えるのが現実的と思われる。尚、今後検討を重ねる。
- ・ 教育システムのコンテンツ部分は、インターネットでの利用を検証し、実用のレベルへとシステムの仕上がりを高度化する。そして、年度末にはインターネット上に搭載して、実際の利用に耐えるように整える。
- ・ 補修の済んだ平治物語絵詞信西巻を展示し、補修工程を e-Learning システムに搭載して、展示の解説に供することで、実際の e-Learning システム応用編への準備を進める。